

2019年度ティーチング・ステートメント

所属：商学部観光マネジメント学科

職・名前：教授・小林雅人

作成日：2020年3月30日

【責任】

教育：

春学期；キャリア形成4（再）《必修》、ゼミナール1（再）《必修》

秋学期；キャリア形成3（再）《必修》、ゼミナール1（再）《必修》、

観光事業と環境〈選択〉

課外活動：

剣道部部长

【理念】

学生が卒業後に大学で学んだことを活かして、幸せな人生を送って欲しい。そのためには、社会に出たときに、社会のルールを守り、誰からも信頼され尊敬される社会人であって欲しい。また、幸せな人生を送るためには、自ら考え自ら行動する自立した社会人でもあって欲しい。

社会のルールを守るということは、他人に迷惑をかけずに共同生活ができることであり、そういう人は他人から信頼される。また主体的に学び、幅広い知識と教養を身に付けている人は、他人から頼りにされ尊敬されるようになる。

自ら考え自ら行動できる人は、困難なことが起こったときでも、他人の意見に振り回されることなく、くじけることなく困難に立ち向かって主体的に解決する道を探り、自らの意志で解決することができる。

【方針・方法】

社会でのルールを守らせるために、クラス内で最低限守らねばならないルールを提示し、ルールを守ることの大切さを教える。また、知識を得る喜び、主体的に学ぶことの楽しさ、自ら考えることの楽しさを、講義やゼミナールを通して体得させる。

1. 社会で常識的なルールを守らせる教育

授業開始時には挨拶し、授業中の私語を禁止している。また、授業中の飲食や着帽を禁止している。さらには、授業中にトイレに立つときには一言断ることを義務づけ、欠席するときにもメールで届けさせる。課題を提出させるときには期限を厳守させ、遅れた場合には減点するなどのペナルティーを与える。

2. 知識を得る喜びを体得させる教育

本学の学生の中には、自然科学分野の知識が極端に不足している学生が少なくない。講義やゼミナールでは、小学生のときに習ったはずである事例や日常生活で体験する事例を挙

げ、基本的な知識の重要性に気づかせている。またキャリア形成では、テレビで放送されたいわゆる教養番組を見せることで、社会のトレンドとニーズをテレビ番組から得ることができることに気づかせている。

3. 主体的に学ぶことの楽しさを体得させる教育

講義では Google Classroom を使い、事前に講義資料を配付することによって主体的に学ぶことができる環境を作っている。また、講義では中間課題と期末課題を課し、主体的に調べて学ぶことのできる機会を提供している。

4. 自ら考えることの楽しさを体得させる教育

講義終了後には毎回、理解度チェックを実施して学生が自ら考える機会を提供している。この理解度チェックは次の講義時に評価して返却しているため、学生が自ら考える機会を提供するばかりでなく、講義した内容の理解度を測定して可視化するとともに、私の教育方法の改善にも役立っている。

成績評価は、平常点（毎回の理解度チェック評価）を 40%、中間課題評価を 20%、期末課題評価を 40%として合算する。この評価方法により、主体的に学ぶこと（中間課題と期末課題）と自ら考えること（理解度チェック）を体得させている。

【評価・成果】

- ・キャリア形成では、実践的な知識が得られたと学生から喜ばれた。
- ・授業評価では、悪くない評価を得ている。
- ・観光事業と環境では受講生の 89%（46 名中 41 名）が単位を修得した。
- ・2017 年度に剣道部の学生 2 名が全日本学生剣道選手権大会に出場した。
- ・2019 年度には剣道部の学生 1 名が全日本学生剣道選手権大会に出場した。

【目標】

- ・再履修者を対象としたキャリア形成とゼミナール 1 では、欠席率を下げることを課題であり、授業時間内に個人面談を実施して個別対応を強化する。これまでも欠席が 3 回以上になると学生にはメールで注意していたが、返信がなく、コミュニケーション不足を感じていたため、個人面談を実施することにした。
- ・4 月から新規に担当する環境科学（2 クラス）でも、受講生が 100 名を越える可能性が高いが、毎回の理解度チェックの実施と返却を行うつもりである。

以上